

【優良受注企業紹介】

メカトロニクスのノウハウを蓄積。
独自のビジョンで技術陣の育成も図る。

株式会社 小林精機

一創業から現在までの歩みは?

当社の創業は、昭和28年に先代の小林憲吉が、盛岡市志家町で興した小林精機製作所がスタートになります。

旋盤加工を得意として、機械部品を造っていました。昭和33年に盛岡市山王町へ移転。昭和52年に有限会社へ改組し、翌年に私が経営を引き継ぎました。滝沢村への移転は、平成元年です。

やがて増資、工場増築、研究開発棟の完成といった節目を経て2001年、現在の社名に改称。ISO9002の認証を取得したのも同年で、その2年後にISO9001への切り替えを済ませています。

社名の「精機」から、精度の高いモノづくりへの原点を感じ取っていただけたと思います。それは、先代から伝わる精神的な遺産と言えるでしょう。また私は「人と金属のインターフェース」という形容を、しばしば用います。一見、無機質に映る金属パーツにも、多くの開発力・技術力・人間力が結集されています。どんなに時代が変わろうとも誠実な仕事ぶりで社会に貢献し、人々の暮らしに役立てることに当社の存在価値があるのだと思います。

生産品目を、お聞かせください。

さまざまな分野からオーダーが寄せられ、生産品目は多岐にわたります。

大まかに分けると、バルブ関連部品・IT関連部品・半導体製造装置部品・

自動車関連部品・電気電子部品・機械部品・産業装置部品などです。さらに医療分析や理化学分析の機器に関しては、メカトロニクスの設計・開発を含めてユニットのOEM生産を手がけるケースも目立ってきました。

24時間操業で月産2千数百アイテムを製造するシフトを組んでいます。試作品、小ロット生産を含め、多品種少量生産を可能とする万全の態勢を整えているのです。もちろん量産加工のニーズにもキメ細かく対応。こうした小ロット生産と大量生産の二つの大きな柱で経営の安定化を図っています。

他社との差異化のポイントは?

ひと言で表すなら、当社は「真面目な会社」で、適正価格・高品質・短納期という三つの条件を満たせるよう常に努力しています。当たり前のことを当たり前前に、やり遂げる…。そうすれば、自ずと実績と評価が伴うと信じています。

難度が高いパーツ製造を積極的に受けています。取り扱い比率が35%に達しているステンレスのほか、技術的に対応できる素材はアルミニウム・真鍮・チタン・ベリリウム銅・マグネシウム・合成樹脂など。そしてCNC自動盤、NC旋盤、マシニングセンター、細穴ドリリングマシンなどの工作機械がミクロン単位の微細加工をスピーディーに進めます。

生産管理システムは、当社でオリジナルに考案したものを運用しています。

「何のために」「どう活用するか」という社内ニーズを熟知する人材が設計ソフト開発も手がけました。受注から工程管理、出荷管理への流れをデータベース上で把握できるほか、工場に設置したLANと連動しています。市場環境に合わせた仕様変更やバージョンアップ、さらにシステムと連動させた業務改善を機動的に行えるメリットは大きいですね。

メカトロニクスの領域では治工具や省力化装置の内製化が特筆されます。また、食品加工やダイカスト加工などに用いる産業装置の開発実績も着実に増え、対応力の広がりにも自信を深めているところです。

品質保証の面では「トラベルシート」の考案と実用化を通して著しい成果が挙がっています。個々の製品について、材料入手から出荷までの工程を逐一チェック。その内容を記録するツールですが、その活用によってトレーサビリティの管理手法、改善点のチェック体制などが飛躍的に充実しました。

業界の動向を、どう捉えていますか。

「何を、どう造るか」という次元とは別に、モノづくりへの倫理観を確立し、これに基づく実践が業界人に求められていると痛感します。その象徴的な例が、ヨーロッパで注目され始めた「RoHS(ローズ)規制」への対応です。EUではグリーン調達として、特定の環



境負荷物質の使用制限を目指しており、カドミウムや鉛などを含まない材料の使用や混在を避けるよう謳っています。

受注環境に関しては、かつての海外移転に伴う空洞化の流れから、国内回帰への動きが見られます。諸外国に負けない、しっかりしたモノづくりに励めば受注機会に恵まれる、と私は前向きに受け止めています。だからこそアピールポイントは多いほど良いと思います。そのためには、開発力や技術力を磨いて企業価値を高めねばなりませんので、その担い手である人材への投資が企業の将来を左右するはずで

最後に、将来に向けた取り組みを。

このほど、係長と課長に30代を抜擢し、人事を刷新しました。5年先、あるいは、その先を見据えた改革ですが、適材適所により各自が役割と責任を自覚できるよう配慮しました。こうした動きは、若手にとっても新鮮な刺激です。

また、現場スタッフには多能工を目指

すよう奨励。さまざまなスキルを習得するためのプログラムを提示し、ステップアップを支援しています。具体的な目標としては、NC旋盤やマシニングセンターの技能検定が挙げられます。さらに40代、50代のベテラン3名が『製造技術師』として、若い世代の育成に励んでいます。

異業種6社が製品の共同開発・共同受注に取り組むテクニカ岩手協同組合への参画、そして岩手県工業技術センターや岩手大学工学部との連携などを通して技術者のレベルアップが図られ、社内の研究開発部門「Zプロジェクト」の活動にも弾みが付いています。

中長期の展望にたち、1億円規模の設備投資を計画しています。その内容は、マシニングセンターやNC旋盤の更新、工場の増築に加え、熱処理・研磨・表面処理に用いる省スペース型の特種加工機新設などです。加工の精度とスピード、そして顧客ニーズに対応できる高度な技術力の追求に終わりはありません。



代表取締役 小林 清之

企業概要

設立：昭和28年10月1日
代表者：代表取締役 小林 清之
所在地：岩手郡滝沢村滝沢字 大崎9-444
電話番号：019-688-6060
FAX：019-688-6063
URL：http://www.kobayashi-seiki.co.jp/
E-mail：koba@kobayashi-seiki.co.jp
資本金：1,000万円
従業員数：68名

事業内容

各種精密機械の部品加工および組み立て / 自動化・省力化機器の設計製作 / コンピュータソフト開発

主要取引先

(株)エイアンドティー・(株)共立・ジューキ電子工業(株)・(株)ソディック・中央精機(株)・筑波ダイカスト工業(株)・東京エレクトロンAT(株)・日本バルスモーター(株)・(株)不二工業(株)・(株)ベン・(株)ミクニライフテック事業部・(株)ミスミ・横河電子機器(株)・リコー光学(株)・(株)アイ・デー・ケー

主要設備

CNC自動盤15台・NC旋盤17台・CNCタッピングセンター18台・マシニングセンター2台・NCフライス1台・細穴ドリリングマシン1台・ポリゴン加工機1台・CAD1台・CNC3次元測定機1台

